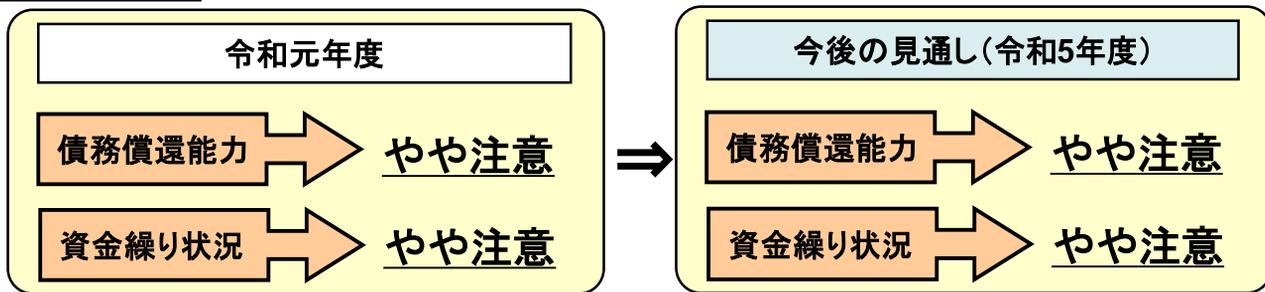


# 東栄町の財務状況把握結果(要旨)

(R3.1.21 財務省 東海財務局)

## 総合評価



## 財務指標

指標	① 実質債務月収倍率 $\left[ \frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12} \right]$	② 債務償還可能年数 $\left[ \frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}} \right]$	③ 行政経常収支率 $\left[ \frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}} \right]$	④ 積立金等月収倍率 $\left[ \frac{\text{積立金等残高}}{\text{行政経常収入} \div 12} \right]$
問題なし	0.3月 ↓ 上昇	0.4年 ↓ 上昇		15.7月 ↓ 低下
やや注意	18.0月	15.0年	10.0% ↑ 7.0%	3.0月
注意	24.0月		0.0%	1.0月

債務償還能力(①、②、③)

資金繰り状況(③、④)

## 留意点

### ○持続可能な財政運営に向けて

貴町は愛知県の山間部に位置し、県内においても特に深刻な人口減少・少子高齢化・過疎化に直面している。また、自主財源に乏しく、行政経常収入の6割超を地方交付税が占める財政構造となっている。こうした中、貴町においては、人口減少の抑制に向け「とうえい暮らしのカラフルパッケージ」として移住定住に係る各種支援制度を整備するなど、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

しかしながら、近年は東栄医療センターの赤字補填に係る繰出金をはじめ、情報通信施設運営などに係る一部事務組合への支出や、町有施設の指定管理料などの負担増大に伴って行政経常支出が増加傾向にあり、平成28年度以降、行政経常収支率は当方の診断基準(10.0%)を下回っている。

さらに、行政経常収支が縮小する中で、平成25年度以降に実施した東栄小学校建設事業などの大型事業に係る地方債の元利償還が本格化してきており、行政収支から財務支出を差し引いた償還後行政収支は、直近3年間において、病院特別会計廃止に伴う清算金のあった令和元年度を除き、赤字となっている。

また、今後については、医療センターなどの建設や、防災行政無線の整備などの大型事業が予定されている。

以上の状況を踏まえ、貴町におかれては、引き続き移住定住促進策を通じて人口減少の抑制に取り組むとともに、公共施設の適正化や病院事業への繰出金の抑制などによって行政経常収支の改善を進め、持続可能な財政運営体制の確立に努められたい。

## 財務指標の経年推移

※平均値は、いずれもH30年度

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	類似団体 平均値	全国 平均値	(参考) 愛知県 平均値
①実質債務月収倍率	2.5月	2.7月	2.7月	3.8月	0.3月	6.5月	8.5月	5.5月
②債務償還可能年数	1.3年	2.8年	3.3年	6.2年	0.4年	6.7年	8.1年	5.9年
③行政経常収支率	15.9%	7.9%	6.7%	5.1%	7.0%	11.5%	10.9%	11.9%
④積立金等月収倍率	12.9月	12.8月	12.9月	11.9月	15.7月	13.5月	7.5月	4.9月